

117) 神田川御茶ノ水橋

神田川御茶ノ水橋人は集まり 人は散りやがて燈も消えてゆきます
俺ひとりここに佇^{たたず}みあの娘を思い 真暗な孤独の底に落ち込んでゆく
哀しくて川面^{かわも}を見れば下を流れる 薄墨の汚れた水が俺を見ている
神田川今日はお前と語り合いたい しんみりと夜が更けるまで語り合いたい

神田川お前の過去を^{さかのぼ} 遡^{さかのぼ} ったら 楽しげでもっと綺麗な日もあったろう
故郷を旅立ちしとき俺にもあった ま心の涙に暮れた青春の日は
夢はずぎ我に返れば今も昔も 貧乏を背中にしょって変わりはない
神田川今日はお前と語り合いたい しんみりと夜が更けるまで語り明かそう

神田川諸悪をすべて溶かしたような 薄墨の汚れた水に何を語るや
幸せな出逢いがあれば脇目も触れず まっとうな道を歩んできたというのか
否ちがうそんな弁^{きべん}解^き詭^{べん}弁^{きべん}にすぎぬ いつだって自分で選んだ道ではないか
神田川教えてほしい 汚れた過去を どうやって浄化するのか教えてほしい

神田川お前と同じ汚れた過去を ひきずってそれでもあの娘愛しているよ
この生命消えるときまで海へ流れて 塩水と溶け合う日まであの娘のことを
いつまでも変ることなく愛しているよ この恋が実らなくとも朽ち果てようと
神田川お前と俺の違うところは ただひとつ人を愛するそれだけのこと

神田川御茶ノ水橋人は散じて 夜が更けて行き交う人は家路を急ぐ
俺ひとりここに佇^{たたず}み出逢い^た途絶えて 安らぎが孤独の底を流れていった

